

報道関係者 各位

2024. 3.1
< 配信枚数2枚 >

■ シンポジウムのご案内 ■
第 12 回 東日本大震災追悼企画「3.11 いのちのつどい」開催
～東日本大震災から 13 年 さまざまな震災への向き合い方を考える～
日 時：2024 年 3 月 9 日（土）13：00～15：00（予定）
場 所：立命館大学 国際平和ミュージアム

立命館災害復興支援室は、第 12 回 東日本大震災追悼企画「3.11 いのちのつどい」を、3 月 9 日（土）13:00 から、立命館大学国際平和ミュージアムにて開催いたします。

立命館災害復興支援室は、東日本大震災発生直後の 2011 年 4 月に大規模・広域・複合型災害の支援窓口として設置し、これまでに延べ約 3000 人の学生・生徒・児童・教職員がボランティアや、企業・自治体と連携した復興支援プロジェクト、フィールドワークを経験し、学ぶことができました。

本企画「いのちのつどい」は、震災で犠牲になった方への鎮魂と復興を願うとともに、追悼の意味を含め、東北をはじめさまざまな震災への向き合い方を考える機会として開催しています。

開催 12 回目となる今回は、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)駐日代表の伊藤礼樹氏をお招きし、紛争や自然災害により発生する難民の国際的な現状と「いのち」の話を語っていただきます。

2 部では、安齋育郎国際平和ミュージアム名誉館長をコーディネーターとし、当室が取り組んでいる福島県原発災害地域の状況を紹介します。東日本大震災の被災地域では復興計画が終了するなど復興が進んでいる中、福島県浜通りの原発被災地域は未だに広範囲の帰還困難地域を抱え、これから復興に着手する地域であり、被災地で原発事故の悲惨さとその闘いを伝承するために設置した「伝言館」に係る地元の方に、これまでの取り組みと現状をご紹介します。



伝言館
(福島県楡葉町)

日 時：2024 年 3 月 9 日（土）13:00～15:00
場 所：立命館大学 国際平和ミュージアム 1 階「中野記念ホール」
(京都市北区等持院北町 56-1)
申 込：■お電話でのお申込み
(075)813-8144 (学校法人立命館社会連携課 災害復興支援室事務局)
■メールでの申し込み
311fukko@st.ritsumeikan.ac.jp にて①お名前②年齢③参加人数④連絡先
を明記してご送付ください。
主 催：立命館災害復興支援室

※詳細は別紙をご覧ください。

※ご取材については、以下担当者までお電話にてご連絡ください。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ

●取材・内容についてのお問い合わせ先

学校法人立命館広報課 担当:覚(かく) TEL. 075-813-8300

別紙

<タイムスケジュール>

- 13:00～ 仲谷善雄(学校法人立命館総長)あいさつ
13:10～ UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)伊藤礼樹 駐日代表 講演・質疑応答
14:15～ パネルディスカッション「福島・原発被災地の今を語る」
コーディネーター:安齋育郎(国際平和ミュージアム名誉館長)
15:00 終了

■伊藤礼樹氏プロフィール

1990年カールトン・カレッジ政治学専攻修了、1992年コロンビア大学国際公共政策大学院、国際関係学修士課程修了。同年、国連ボランティア(UNV)としてUNHCRボスニア・ヘルツェゴビナ事務所派遣、その後、UNHCR本部国際保護総局保護官、国連世界食糧計画(WFP)ドナー・リレーションズ・オフィサー、各国にて事務所上席保護官・事務所副代表・事務所代表などを経て、現在、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)駐日代表を担う。



伊藤礼樹氏

■安齋育郎名誉館長 プロフィール

1986年立命館大学経済学部教授、1988年、国際関係学部教授。現在、名誉教授。1995年より国際平和ミュージアム館長、2008年4月より名誉館長。平和のための博物館国際ネットワーク・諮問理事。南京国際平和研究所・名誉所長。ベトナム政府より「文化情報事業功労者記章」受章。「第22回久保医療文化賞」、韓国のノグンリ国際平和財団「第4回人権賞」受賞。



安齋育郎館長

■「伝言館」

福島事故原発に程近い檜葉町の古刹・宝鏡寺境内に2021年3月11日に開設された平和博物館で、同寺第30世住職の故・早川篤雄氏が、50年間原発政策批判で共同してきた安齋育郎氏(立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)と協力して立ち上げた。現在、安齋氏が館長を務める。原水爆被害に関する展示の他、福島原発事故関係の展示があり、隣接する未来館では様々なテーマの特別展が随時開かれている。



伝言館

■立命館災害復興支援室の主な取り組み

- ・「東北食べるツアー ～生産者と語ろう～ in 仙台」(2022年7月15日～16日)
仙台市で農業を営む農家や食流通企業を訪れ、東北の今を知り、復興の歩みや人々の思いに触れる正課外プログラム。学生15人が災害や復興について自分たちにできることを考えました。
- ・2023年度「チャレンジ、ふくしま塾。」(2023年7月～2024年3月)
津波や原発事故を経験した福島の現状や復興について関心を寄せる学生たちが、福島や震災の復興に関わる教員や専門家から学び、フィールドワークを通じて、発信活動に取り組む正課外プログラム。福島県庁と立命館が連携し、2017年度に開始。学生20人が参加しました。
- ・立命館災害復興支援室 HP:<https://www.ritsumeit.ac.jp/fukkor/>